

伯耆大山きやらぼくノ天然純林
（大正十五年六月竹中要撮影）

テ LUDOWIG PFEIFFER ノ Nomenclator botanicus ニ據リタルモノナルコトヲ附記シテオク

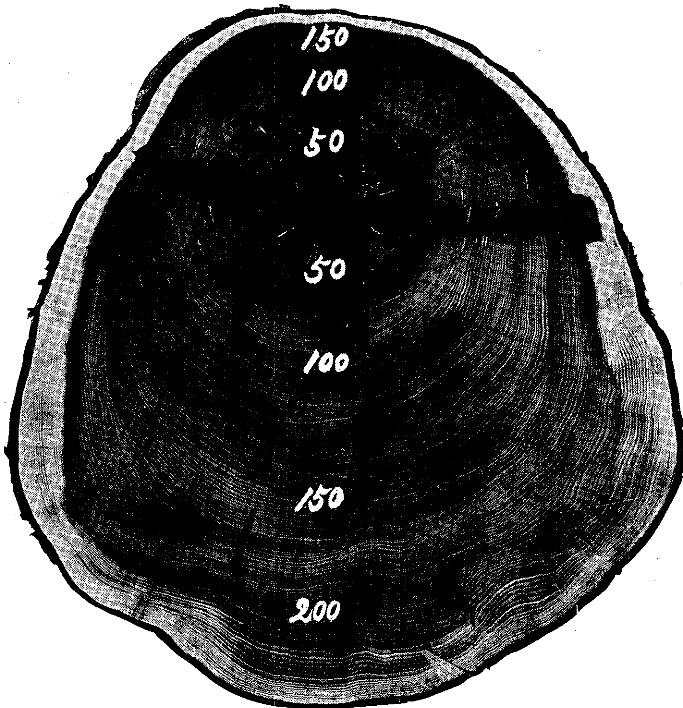
## ○伯耆大山ノ自然生きやらぼく

東京帝國大學理學部植物學教室 理學士 竹中要

きやらぼくト云ヘバ直チニ伽羅木ヲ思ヒ出スガ此處ニ云フノハ決シテソレデハナイ

伯耆ノ大山(ダイセン)ニ登ルト山頂近クニ一面ニ丈ケノ低イいちゐノ様ナ木ノ盛ンナ群落ヲ見ル、ソレガきやらぼくデアル（本誌第三卷第七號ノ口繪參照）

元來きやらぼくト云フノハいちゐノ別名デアッテいちゐガ伽羅の木ノ様ナ香氣ヲ持ッテヰルカラサウ稱ヘル様ニナッタノダト云フ事ダ、今デモ東北地方ヘ行クト




伯耆大山きゃらぼく大枝ノ横斷面、數字ハ年輪ノ數ヲ示ス
(竹中要撮影)

いちゐノコトヲきゃらぼくト呼ンデ居ルガ我植物社會デハ Taxus cuspidata SIEB. ET ZUCC. var. umbraculifera MAKINO. (＝T. cuspidata SIEB. ET ZUCC. var. nana REHD.) ノ和名トナッテヰル即チ前記大山ノガソレデアル

一體從來カラ日本全國ニ廣ク庭園樹トシテ此きゃらぼくガ存在シテヰルコトハ世人ノ普ク知ル所デアルガ然シ其天然ニ自生シテヰルモノハ唯伯耆ノ大山ト其山彙ノ内ノ二三ノ山ノ頂上近クニ僅カニ知ラレテヰルダケニ過ギナイ樣デアル、大山近クノ中國地方ノ諸山ニ於テモいちゐハ僅カニ存在ノ痕跡ヲ留メテハヰルガきゃらぼくヲ見出スコトガ出來ナイノハ面白イ現象デアルト思フ、此大山ニきゃらぼくノ生ジテ居ルコトハ近日ノ發見デハナク既ニ牧野先生ハ今カラ二十二年前ノ明治三十九年八月二十一日ニ親シク之ヲ採集シテ疾ク同山ニ其天然生

ノアルコトヲ知ッテ居ラレタ

いちゐト異ッテ高サハ僅カ數尺ダガ横ヘ横ヘト擴ガッテキテ大山デハ一株デ優ニ數反歩ヲ覆フテキルノデハナイカト思ハレルモノガアル、其材ノ年輪ハ甚ダ細カデ前頁ノ寫眞ニ示ス通リデアルガ此寫眞ノモノハ幹ノ上側ハ下側ニ比シテ發達不完全デ從ッテ年輪ノ數ガ少ナイ（是レハ多少傾斜地ノモノデアルセイデモアラウカ）兎ニ角伯耆ノ大山ニ此ノ樣ナ林叢ガアルノハ頗ル珍ラシイコトダ、幸ニ先頃コレガ天然記念物トシテ內務省デ保存サレル樣ニ指定サレタノハ何ヨリ喜バシイコトデアル

## ○あかめがしは等ノ芽ノ色

東京帝國大學、藥學科、生藥學教室　藥學士　木村康一（カウイチ）

**あかめがしは** (Mallotus japonicus MUELL. ARG. たかとうだい科) ハ其名ノ如ク其嫩葉ハ誠ニ美シイ紅色ヲ呈シテ居ル、試ニ其表面ヲ「ルーペ」デ檢スルニ無數ノ紅ク染ッタ毛ガ密生シテ居ルノガ認メラレル、爪デソットカイテミルト其毛茸ハソックリ分離シテ葉ノ表面ガ現ハレル葉ソノモノハ綠色ヲ呈スルノミデ何等紅色ヲ帶ビテ居ナイ、紅イ毛茸ノ少許ヲ取リ顯微鏡下ニ檢スルニ洋紅色ノ色素溶液ヲ滿シテ居ル星狀毛デアルノヲ認メル、色素溶液ハ多クハ毛ノ中ニ全滿シテ居ルガ中ニハ全滿シテ居ナイ許リデナク球狀ヲナシテ點在シテ居ルノモアル、此星狀毛ハ嫩葉ニ於テハ紅色ヲ呈シテ居ルガ已ニ數糎ニ生長シタ葉デハ紫紅色デ更ニ生長シタモノニアッテハ紫褐色乃至紅褐色或ハ進ンデ黃褐色ヲ呈シテ居ル、星狀毛ノ存在ハ葉ノ裏面ヨリハ表面ニ密デ往々裏面ニハ全ク色素ヲ缺イダ星狀毛ヲ有ッテ居ルノモアル、又成葉ニ於テモ毛茸ノ分布極テ粗デアルノハ葉ノ生長ニヨル表面積ノ擴張ニ拘ハラズ毛茸ハ特ニ增加セズ且却テ脫落シ易イ爲デアラウ、此樣ナ譯デ嫩葉ノ表面ハ其葉ノ內部ノ葉綠素ノ呈スル綠色ガ葉ノ表面ニ密生スル毛茸ニ蔽ハレテ此ニ美シイ紅色ヲ呈スルノデアル